

## InterRisk Thai Report <2021 No.12>

### タイのバイク事故

※本稿は、三井住友海上タイ支店と共著でバンコク日本人商工会議所・所報（2021年6月号）に掲載した記事の統計データを一部更新し、再構成しています。

#### 【要旨】

- タイのバイク登録台数は21百万台に上り、人口当たりの登録台数は日本の約4倍です。
- タイにおけるバイク事故の死亡率は約33%であり、他の車種の約2倍です。
- 主なバイク事故の原因は、スピード違反、人・自動車・動物の割込み、飲酒運転であり、事故件数、死亡者の80%以上がスピード違反と割込みに起因しています。
- タイはヘルメットの着用率が低く、バイク事故による死亡率が高い一因になっています。

#### 1. タイのバイク登録台数

タイにおけるバイクの登録台数は毎年数十万台ずつ増加しており、2014年に20百万台を突破、2020年には約21百万台に達しています<sup>1)</sup>。これはタイの全人口約66百万人<sup>2)</sup>のおよそ32%、15歳～64歳（タイにおけるバイクの免許証取得可能年齢は15歳以上）の人口約47百万人<sup>2)</sup>の45%に相当します。

下表に、タイ、インドネシア、ベトナム、日本におけるバイクの登録台数と人口比を示します。タイのバイク登録台数は日本の2倍、人口比では4倍に上っており、インドネシアやベトナムと並んでバイク大国であることが分かります。

表1 バイク登録台数と人口比 ※インターリスク・タイランドにて作成（図4を除き同様）

	バイク登録台数	全人口*	人口（15～64歳）*
タイ	21百万台 <sup>1)</sup>	66百万人 <sup>2)</sup> (32%)	47百万人 <sup>2)</sup> (45%)
インドネシア	121百万台 <sup>1)</sup>	271百万人 <sup>3)</sup> (45%)	183百万人 <sup>3)</sup> (66%)
ベトナム	61百万台 <sup>4)</sup>	97百万人 <sup>5)</sup> (63%)	67百万人 <sup>5)</sup> (91%)
日本	10.5百万台 <sup>6)</sup>	125百万人 <sup>7)</sup> (8%)	74百万人 <sup>7)</sup> (14%)

※括弧内の数値（パーセント）は、バイク登録台数の人口比を示します。

タイの交通事故による死亡率は人口10万人あたり32.7人と世界で9番目、東南アジアでは最も高く<sup>8)</sup>、その一因としてバイク事故が多数発生していることが挙げられます。そこで本稿では、タイにおけるバイク事故に着目し、統計データに基づき解説します。

#### 2. バイク事故に関する統計データ

タイ運輸省の交通事故管理システム<sup>9)</sup> (Transport Accident Management Systems: TRAMS / Ministry of Transport) によれば、自動車、トラック、バイク、自動三輪車、自転車、歩行者等を含む2021年の全交通事故件数は21,017件、死亡者数2,826名、負傷者数15,722名です。図1に2018年～2021年の全交通事故件数および死亡者数の推移を示します。

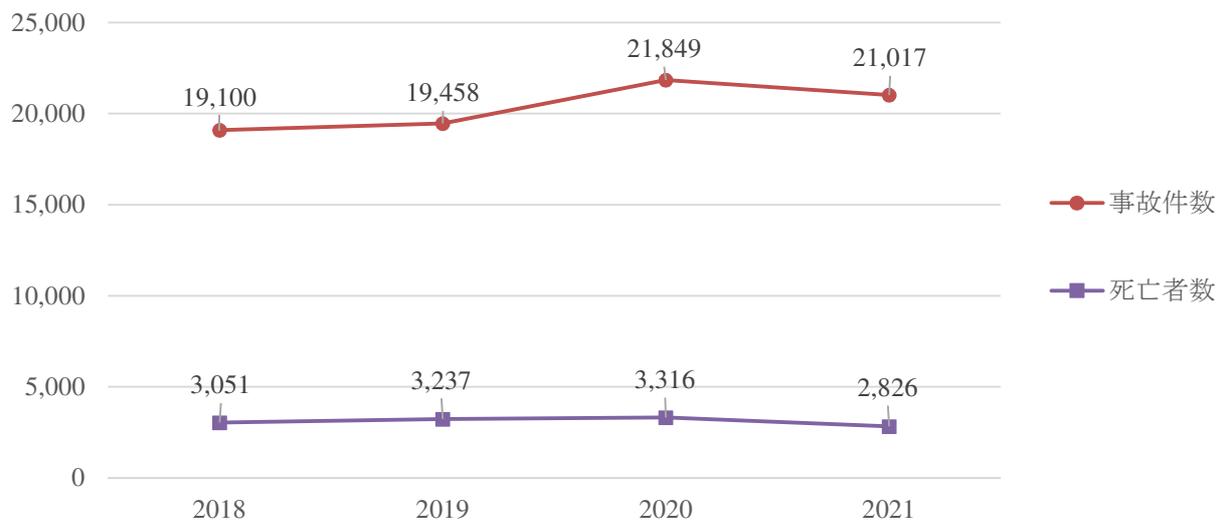


図1 交通事故件数・死亡者数の推移（2018年～2021年）

次に、2018年～2021年に発生したバイク事故の件数、死亡者数、負傷者数を表2および図2に示します。2021年に発生したバイクが関連する交通事故は4,656件、死亡者数1,525名、負傷者数4,420名であり、過去4年間はほぼ横ばいで推移しています。

表2 バイク事故件数・死亡者数・負傷者数（2018～2021年）

項目	2018年	2019年	2020年	2021年
事故件数（件）	4,584	4,226	4,733	4,656
死亡者数（人）	1,384	1,446	1,591	1,525
負傷者数（人）	4,446	4,234	4,485	4,420

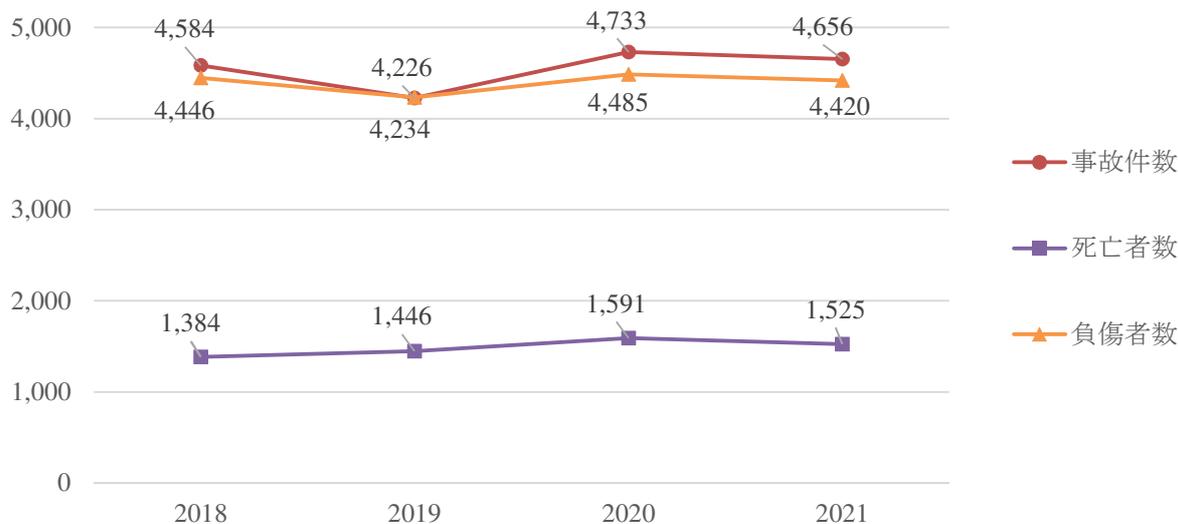


図2 バイク事故件数・死亡者数・負傷者数の推移（2018年～2021年）

ここで、タイにおけるバイク事故の特徴を明らかにするため、2018年～2021年の全交通事故件数および死亡者数におけるバイク事故の割合を図3に示します。

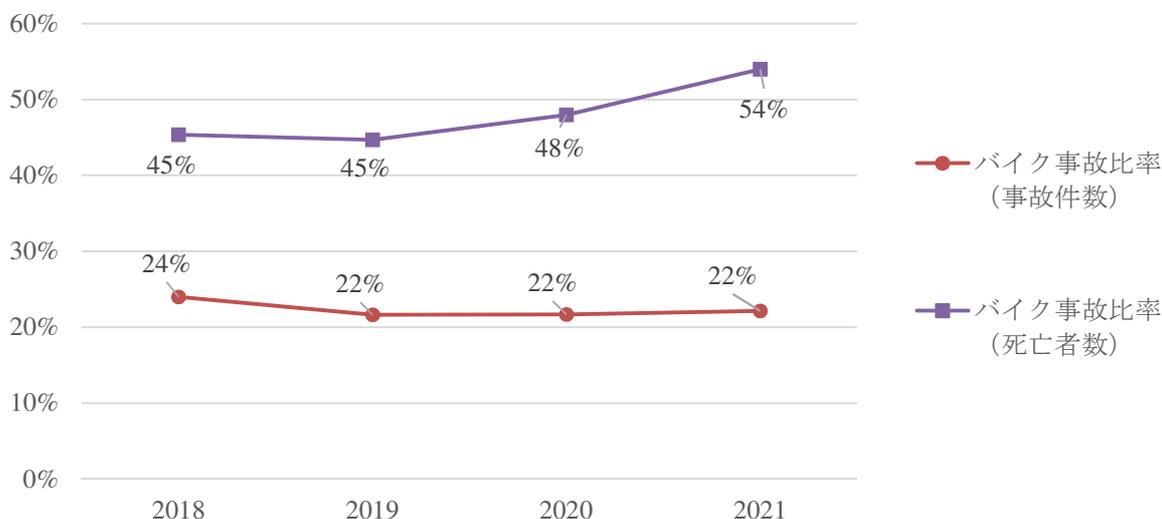


図3 交通事故件数・死亡者数におけるバイク事故の比率 (2018年～2021年)

全ての交通事故件数に対するバイク事故の比率 22%～24%に対して、交通事故による死亡者の 45%～54%がバイクに起因していることが分かります。これは、バイク事故の死亡率が他の車種による事故のおよそ2倍であることを示しています。2021年は全ての車種を含む1事故当たりの死亡率（死亡者数/事故件数）13%に対し、バイク事故のみでは33%に上ります。

主なバイク事故の原因は、スピード違反、人・自動車・動物の割込み、飲酒運転であり、事故件数、死亡者の80%以上がスピード違反と割込みに起因しています。表3に2018年～2020年の事故原因別事故件数、死亡者数の推移を示します。

表3 事故原因別事故件数、死亡者数の推移

	事故件数 (件)			死亡者数 (人)		
	2018年	2019年	2020年	2018年	2019年	2020年
スピード違反	2,800 (61%)	2,474 (59%)	3,073 (65%)	884 (64%)	921 (64%)	1,065 (67%)
割込み	892 (19%)	873 (21%)	1,029 (22%)	252 (18%)	241 (17%)	296 (19%)
飲酒運転	380 (8%)	372 (9%)	173 (4%)	73 (5%)	89 (6%)	58 (4%)

バイク事故による死亡者が多い原因のひとつに、ヘルメットの未着用率が高いことが挙げられます。Thai Roads Foundation<sup>10)</sup>の調べによれば、次ページの図4に示す通り、運転手、同乗者を含むヘルメットの着用率はタイ全国の平均で45%、郊外では30%であり、同乗者に限定するとそれぞれ21%、12%と、ヘルメットを着用しないことが当たり前の状況になっています。タイ全国で最も着用率が高いバンコクでも、運転手は8割以上がヘルメットを着用していますが、同乗者は半分程度に止まります。バイクタクシーや通学の送迎など、同乗者がヘルメットを着用しないバイクの二人/三人乗りは日常の光景となっていますが、その危険性について認識を新たにする必要があります。

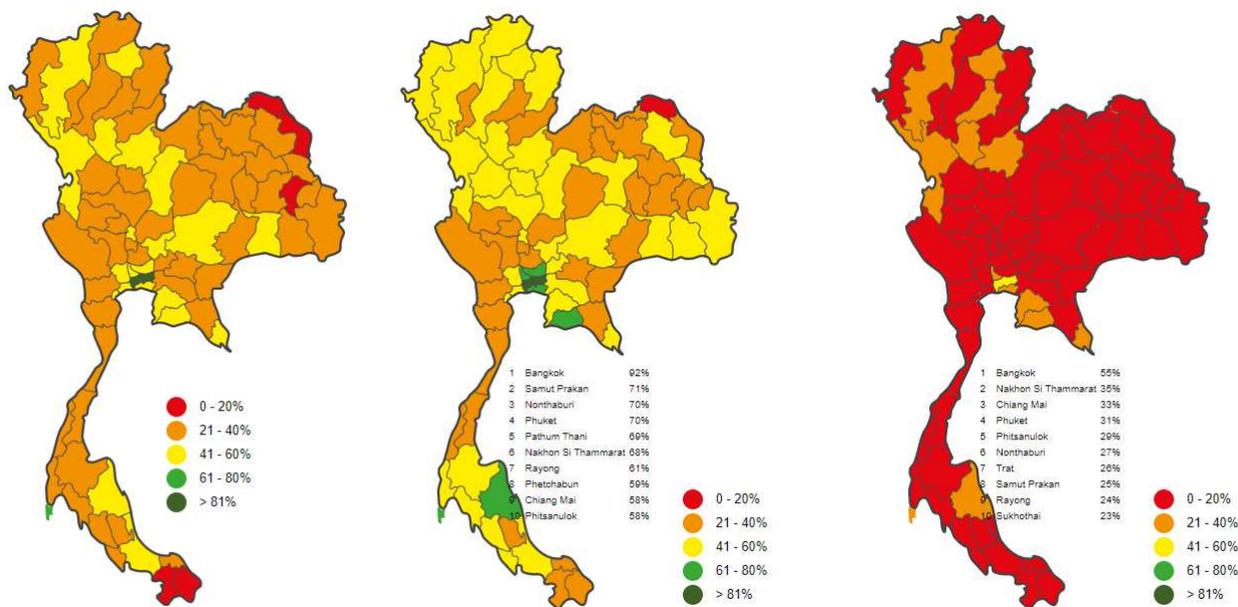


図4 ヘルメット着用率 (2018年) 10)  
(左:運転手・同乗者、中:運転手、右:同乗者)

また、バイクの無免許運転も多く、2018年の Thai Roads Foundation によるサンプル調査では、30%のバイク運転手が無免許であったと報告されています。

### 3. バイクに関連する主な道路交通法

このような状況の中、タイ政府は交通事故による死亡者数を低減するための取組みを10年以上継続しており、飲酒運転や無免許運転に対する罰則の強化も進めています。表4にタイの道路交通法 (Road Traffic Act) におけるスピード違反、飲酒運転、ヘルメット未着用、および免許不携帯時の罰則を下表にまとめます。

表4 スピード違反、飲酒運転、ヘルメット未着用、無免許運転時の罰則

違反項目	罰則 (1 バーツ=約 3.56 円)
スピード違反	罰金 500 バーツ (Section 67)
飲酒運転	罰金 5,000 – 200,000 バーツ※、禁錮、免許停止 等 (Section 43) ※血中アルコール濃度の基準: 50mg/100ml (20 歳以上)、20mg/100ml (20 歳未満)
ヘルメット未着用	運転手: 罰金 400 バーツ、同乗者: 罰金 800 バーツ (Section 122, 148)
無免許運転 / 免許期限切れ	免許不携帯: 罰金 200 バーツ (Section 31) ※ Vehicle Act の規定 (通常、Road Traffic Act が適用される) 免許不携帯: 罰金 1,000 バーツ、禁錮 1 年 (いずれも最大) 免許期限切れまたは無効期間の運転: 罰金 2,000 バーツ (最大)

※ 第三者の被害程度 (負傷、死亡) によって罰金額、禁錮の有無、免許停止期間が異なる。

#### 4. まとめ

タイでは交通事故が多発していますが、その中でも特にバイク事故による死亡者が多く発生しています。その要因としては、スピード違反、人・自動車・動物の割り込み、飲酒運転、ヘルメットの未着用などが挙げられます。バイクの普及率は15～64歳の人口比で45%に達しており、プライベートのみならず従業員が通勤使用するケースもあることから、企業としても看過できないリスクと言えます。

バイクによる交通事故のリスクを低減するためには、従業員へ定期的に安全運転講習を提供することが有効です。最近、街中でヘルメットに小型カメラを装着している宅配ドライバーを見かけますが、このようなバイク版のドライブレコーダーによる映像を活用したKYT（危険予知トレーニング）は、従業員の安全運転への意識を高め、大事故を未然に防ぐための有効なツールです。

インターリスクアジアタイランドは、ご要望に応じてバイクの安全運転研修やKYTツールをご提供しています。ご興味がありましたら、是非、当社ウェブサイトからお問合せください。

#### 参照

- 1) <https://www.statista.com/>
- 2) Thailand Board of Investment (<https://www.boi.go.th/index.php?page=demographic&language=ja>)
- 3) GraphToChart. 「グラフで見るインドネシアの人口ピラミッド(全年齢・男女別・過去との比較・少子化と高齢社会の考察)」。最終更新:2020-08-30. <https://graphtochart.com/population/indonesia-pyramid.php>(参照日時:2022-03-20)
- 4) <http://hanoitimes.vn/vietnam-ranks-fourth-among-countries-with-largest-number-of-motorcycles-46205.html>
- 5) 経済産業省 ([https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/healthcare/iryuu/downloadfiles/pdf/countryreport\\_VietNam.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/iryuu/downloadfiles/pdf/countryreport_VietNam.pdf))
- 6) 一般社団法人 日本自動車工業会
- 7) 総務省統計局
- 8) Global status report on road safety 2018 (World Health Organization: WHO)
- 9) <https://trams.mot.go.th/dashboard-road>
- 10) <http://trso.thairoads.org/statistic/helmet/provincial/281>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.

175 Sathorn City Tower. South Sathorn Road.Thungmahamek. Sathorn. Bangkok 10120. Thailand

TEL: +66-(0)-2679-5276

FAX: +66-(0)-2679-5278

<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。  
また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研株式会社 2022